

河川やプール等での水の事故を防止しよう

《日常生活における事故》

夏は河川でバーベキューをしたり、プール等に出かけたりする機会が増えて楽しい季節ですが、おぼれて救急搬送される事故も、この時期に多くなります。

河川やプール等でおぼれる事故は、生命を脅かす事故となる可能性が高いことから、十分な注意が必要です。

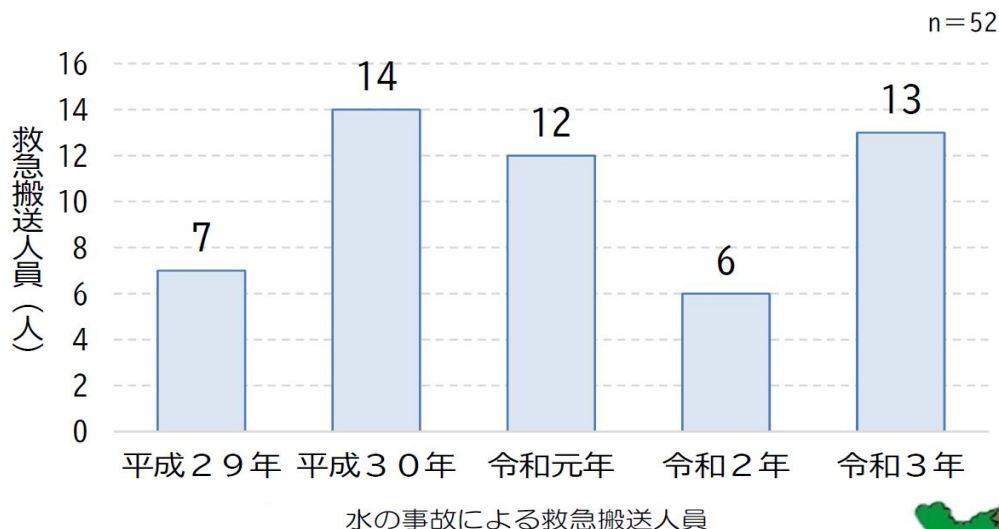
1 河川やプール等での水の事故を防ぐために



- 小さい子供と一緒に水遊びをする際は、子供から目を離さず、保護者や大人が必ず付き添って遊びましょう。
- 飲酒後や体調不良時には遊泳を行わず、そのような人が遊泳しようとしている時は、遊泳をやめさせましょう。
- 海や河川では、気象状況に注意を払い、荒天時や天候不良が予測される場合は遊泳や川岸等でのレジャーを中止しましょう。
- 海や河川では、ライフジャケットを着用するなど、事故の未然防止に努めましょう。

救急搬送人員の推移

東京消防庁管内¹⁾では、平成29年から令和3年²⁾までの6月から9月までに発生した河川やプール等でおぼれる事故³⁾により、52人が救急搬送されています



1) 東京都のうち稲城市、島しょ地区を除く地域

2) 令和3年の数値は暫定値

3) 「自損」、「浴槽での溺水」は除く。



低圧進相コンデンサの火災にご注意を！

低圧進相コンデンサから出火する火災は例年、梅雨の季節から暑さが続く9月にかけて多発します。出火原因のほとんどが長年使用による絶縁劣化により、発熱、出火しています。

低圧進相コンデンサは工場や作業場、飲食店などで工作機械、業務用冷蔵庫等の動力として使われます。これから本格的な暑さが続き、コンデンサ本体の温度もさらに上昇して絶縁劣化が進み、火災が多発する危険性があります。分電盤に古いコンデンサが使用されていないか確認しましょう。

分電盤の低圧進相コンデンサ設置例



注意！



【低圧進相コンデンサとは】

低圧200V～300Vで受電する作業場や飲食店などで、モータ等を使用する電気機器や業務用冷蔵庫の力率を改善し、電力の効率をよく使用するための機器として、1940年（昭和15年）頃から分電盤などに設置されています。

設置されている主な建物用途として、工場、作業場、クリーニング作業場など、モータ等の動力機器を使用するための建物や、飲食店、小売店などで業務用の冷蔵庫、冷凍庫を使用する建物の配電盤等に設置されています。

※ 低圧進相コンデンサは分電盤や壁などのメインブレーカー付近に取り付けられている金属製の箱状のもので、ドロップ缶やコンビーフ缶に似ています。

【低圧進相コンデンサの火災を防ぐために】

- 1 機器を使用しない時はメインブレーカーを切り、低圧進相コンデンサに電圧がかからないようにしましょう。
- 2 特に昭和50年（1975年）以前に製造された製品には保安装置が内蔵されていないため、被害が拡大する危険性がありますので使用の停止や交換することなどがが必要です。
- 3 概ね10年以上経過したものは、専門業者による点検を受け、計画的に交換しましょう。

日本堤消防署管内の災害状況[令和4年中]

(令和4年7月1日現在)

火災件数	17件
焼損床面積	1㎡
救助件数	86件
救急件数	3,072件

お問合せはこちらまで

日本堤消防署 03-3875-0119
 日本堤消防署二天門出張所 03-3845-0119
 日本堤消防署今戸出張所 03-3873-0119
 E-mail nihondutumi2@tfd.metro.tokyo.jp

メールマガジンについてのお問合せは日本堤消防署警防課防災安全係にて受け付けております。